

学位論文審査の結果の要旨

1. 申請者氏名	片桐 亮(亜希)
2. 審査委員	主査：(上越教育大学 教授)五十嵐 透子 副主査：(鳴門教育大学 教授)葛西 真記子 委員：(兵庫教育大学 教授)海野 千畝子 委員：(上越教育大学 教授)林 泰成 委員：(鳴門教育大学 教授)小倉 正義
3. 論文題目	ジェンダー／セクシュアリティをくなのる>こととくいきる>ことの意味 ——多様な性のくかたり>を媒介とした心理臨床学的考察——
4. 審査結果の要旨	<p>学校教育実践学専攻学校教育臨床連合講座 片桐亮(亜希)から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。</p> <p>論文審査日時：平成31年2月18日(月) 14時00分～15時00分 場 所：兵庫教育神戸ハーバーランドキャンパス 演習室4</p> <p>1. 学位論文の構成と概要 本論文はセクシュアル・マイノリティのアイデンティティとパーソナリティの主要な側面の1つであるセクシュアリティの多義性や多元性に関し3つの研究から検討したもので、5章から構成されている。</p> <p>第1章 “序”と“はじめに”を含め、申請者自身の“性”に関する体験とアイデンティティの模索および心理臨床実践からの着眼点を共有し、ジェンダーとセックスおよびセクシュアリティに関する概念の整理を行い、本研究の目的を論じた。解剖学的・生物学的および心理学的・社会的に二分化したとらえ方と、生得的に不変的な状態から可変的な状態であることと多様な状態が存在していることを文献レビューに基づき問題提起を行った。特にセルフ・アイデンティティにおいて、本研究の独自性であるくなのる>とくいきる>ことの意味や機能を整理し自他間の異質性を示すと同時に同質性を含有しており、これらは対人関係のなかでみられることを指摘した。さらに、LGBTQ+研究にも用いられるクィア研究をとりあげ、本研究の独自性のある分析において、学問横断的でもある本研究法を用いる点と研究者自身の当事者性に関する検討も行っている。</p> <p>第2章 研究Ⅰとして、ジェンダー・アイデンティティの解体と再生のプロセスを歌舞伎の《三人吉三廓初買》の主人公である女装の盗賊をくなのる>「お嬢吉三」に焦点化し分析と考察を行った。生育歴のなかで男性として誕生したお嬢吉三が健康的な成長をするために女兒として養育されるなか5歳で誘拐されたことで、思春期に身体的性別に戻す機会を失ったこと、それが歌舞伎のテーマとして女形で演じられる意味を検討した。さらにお嬢吉三のアイデンティティの確立において、二項対立を脱構築するプロセスを論じた。</p> <p>第3章 研究Ⅱでは性の多様性への理解を深め受容し合える教育現場の環境作りの必要性を提示し、多様性の中でもXジェンダーを自認する1人の研究協力者と7回のインタビュー結果を分析した。シークエンス分析を採用し、主観的体験の意味の理解とライフ・ストーリーの再構成を行った。“男性”あるいは“女</p>

性”という二者択一のカテゴリーではなく、女性と男性の間を振り子のように変動しながら男女間の中心部に位置したいという“X”状態の多様性が示された。変容し続ける状態の理解は個別性に応じた対応で教育分野で求められることであり、研究対象である話し手と聴き手の間で生成される意味と相互理解の重要性は、児童生徒と教員間の関係につながる点も論じられている。

第4章 研究Ⅲでは性の多様性に関し、教育分野で対象となる思春期にも体験されやすいqueer / questioningの状態に着目し、セクシュアリティの曖昧性と多義性を他者との関係のなかで語られる現実には焦点化し、探索的考察を行った。性指向の側面から“バイセクシャル”かつ一夫一婦制ではない“ポリアモリー”をくなくの>シスジェンダーの女性との5回のインタビュー結果をストーリー領域から解釈した。強い他者志向した生き方を続ける研究協力者の語りにはインタビューアである研究者および二者関係の影響を受けやすい点を考察し今後の研究の課題と方向性を論じた。

第5章 総合考察では、ジェンダーやセクシュアリティがセルフ・アイデンティティの一部であり、多元的自我を論じた上で、3つの事例研究に基づき“性”に関することが多元的である状態と要因、他のアイデンティティ要因との差異を検討し、くなくの>だけでなく“なのら（れ）ない”状態を考察した。加えて、セクシュアル・マイノリティの二者間での話し手と聴き手の相互作用、語られた内容を文字化し、さらに分析をし、それを言語表現するプロセスにおける脱構築する“聴き手”かつ“研究者”の役割を考察し、脱構築に関する新しい知見を提示した。

2. 審査経過

論文公聴会後の審査委員5名による審査委員会において、論文内容に関し質疑が行われた。特に以下の3点に関し、詳細な審査が行われた：

- ・インタビューによるデータに対するより深層部の分析、語り手と聴き手ともにセクシュアル・マイノリティであっても二者間に生じていた共通理解の困難さが、個人の生き方や対人関係における“わかりあえなさ”や“曖昧さ”“不確実性”などにシンクロナイズしている可能性
- ・くなくの>状態に対し「なのらない」状態、時間的流れのなかで「なのらない」状態からくなくの>状態、これらの状態のなかで2人がともに抱くファンタジーとその影響
- ・社会文化的影響、当事者性の意味と相互作用のなかでの影響

(1) 研究目的と論文構成の整合性

本研究に着眼した経過と“性”に関する多様性と個別性の理解を深めるため、文献レビューを丹念に行い、3事例に基づき「なのる」意味と「いきる」意味を探索的に考察している。歌舞伎の原本とインタビューに基づき、1人ひとりの固有な性のデータをシークエンス分析を用いるとともに、インタビューとインタビューアの二者間の相互作用も含めて分析しており、研究目的に沿った研究方法が採用され、論文としても整合性のとれた構成になっている。

(2) 独創性と発展性

セクシュアル・マイノリティの当事者研究ではなく、セクシュアル・マイノリティかつ心理臨床の専門家として、当事者の状態や苦悩、求めていることなどを伝える媒介の役割ではなく、“聴き手”として、語られたストーリーを話し言葉から書き言葉にして整理をすることそのものが、二項対立の状態に対する脱構築化の1つであることを論じた点で、独自性の高い内容といえる。

(2) 教育実践への貢献および社会的貢献

児童生徒ならびに保護者そして教職員の性の多様性の理解とそれぞれへの個別的対応が促進されているが、本研究結果で示された個人内での揺れ動きは生物学的・心理学的・社会的側面での状態や動きにも直結している点で、さまざまな概念の個別性や多様性とは異なる点が挙げられる。これらの理解と揺れ動きのある状態への対応のあり方や具体的対応への示唆の提示として、教育分野への貢献度は高い内容である。

3. 審査結果

以上により、本審査委員会は 片桐 亮 (亜希) の提出した学位論文が博士 (学校教育学) の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。